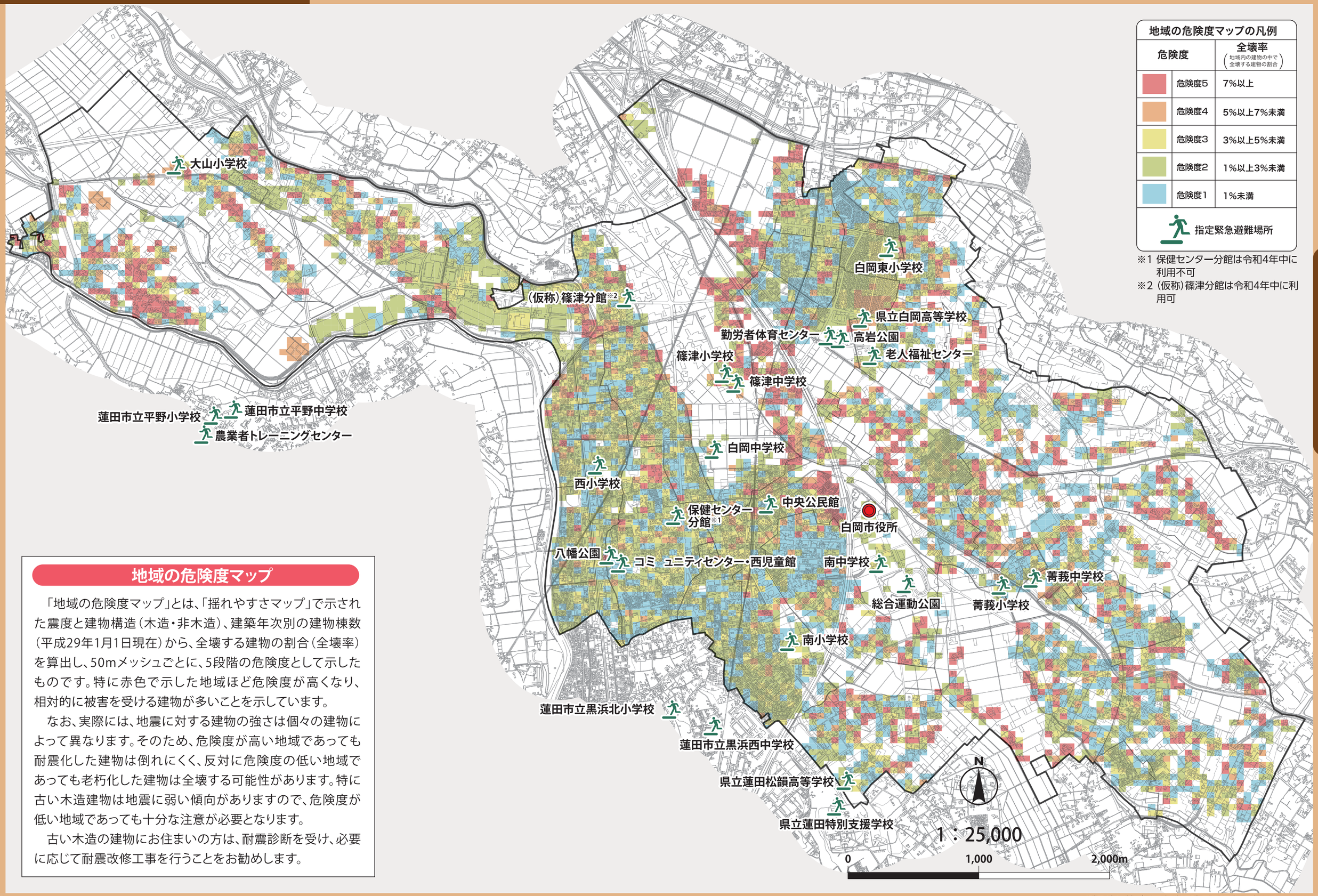
地域の危険度マップ



地域の危険度マップ

「地域の危険度マップ」とは、「揺れやすさマップ」で示された震度と建物構造（木造・非木造）、建築年次別の建物棟数（平成29年1月1日現在）から、全壊する建物の割合（全壊率）を算出し、50mメッシュごとに、5段階の危険度として示したものです。特に赤色で示した地域ほど危険度が高くなり、相対的に被害を受ける建物が多いことを示しています。

なお、実際には、地震に対する建物の強さは個々の建物によって異なります。そのため、危険度が高い地域であっても耐震化した建物は倒れにくく、反対に危険度の低い地域であっても老朽化した建物は全壊する可能性があります。特に古い木造建物は地震に弱い傾向がありますので、危険度が低い地域であっても十分な注意が必要となります。

古い木造の建物にお住まいの方は、耐震診断を受け、必要に応じて耐震改修工事を行うことをお勧めします。

測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 3JHs 554